

2020年7月5日（日）

主 題：「互いに愛し合いなさい」

—愛の勧め—

聖 書：1 ペテロの手紙1章22～25節

はじめに

- ・おはようございます！ 今日神の前に出て、皆様とご一緒に礼拝できる幸いを感謝します。
- ・私たちにとって、最も大きな課題の1つは、身近な人を愛することです。
子どもが親に愛されて育つことは正しいことです。しかし最近、幼児虐待、児童虐待という言葉をよく耳にします。まだ、抵抗力がない子どもが、大の大人によって一方的に虐待を受ける現実があります。
- ・一般的に、児童虐待には4種類あると言われています。
 - ① 身体的虐待、 ②性的虐待、③ネグレクト、④心理的虐待
- ・厚生労働省は2019年8月1日、全国の児童相談所で2018年度中に対応した児童虐待相談件数（速報値）が15万9,850件と、過去最多を更新したことを明らかにしました。（統計表を提示）
- ・2018年度中に全国212か所の児童相談所が、児童虐待相談として対応した件数は、前年度（2017年度）より2万6,072件多い15万9,850件でした。
1990年度の集計開始以来、28年連続で過去最多を更新しました。本当に心が痛みます。
- ・そこには、それなりの理由があったでしょう。しかし、虐待問題には言い訳は通用しません。結局のところ、虐待する側（加害者）は自分目線で子どもを虐待しているのです。神から離れた私たちは、徹底して自己中心的なものです。
- ・皆さん。愛し、愛される生活ほど、幸いなことはありませんね。子どもは親に愛されたい！と願っています。いいえ、大人も愛されたい！と願っています。人間は愛に渴いています。神が人間をお造りくださった時、自己中心的な人間をお造りになられたでしょうか。
- ・いいえ。そうではありません。聖書は、神の姿に似て人は造られたと教えています。神は虐待するようなお方ではありません。神は愛であるお方です。
- ・愛し、愛される関係こそ、じつは正しい関係です。しかし、身近な人を愛することは簡単ではありません。いかがでしょうか。あなたの近い人をご自分のように、愛しておられるでしょうか？
- ・今日のテキストの著者ペテロは、「きよい心で互いに熱く愛し合いなさい。」と命じています。2点

大切なポイント

1 互いに愛し合いなさい

- 1:22 あなたがたは真理に従うことによって、たましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、きよい心で互いに熱く愛し合いなさい。
- ・この聖句の中心的な教えは、互いに愛し合うことです。それは私たちにとって、とても大切なこ

とです。当時の信仰者たちが、兄弟愛を抱くようになったのは、真理に従うことによって、たましいが清められたからでした。つまり、神にあってたましい（心）が清いものとされたからでした。これが兄弟愛の前提となります。

- ・イエスは弟子たちに最後のメッセージで、こう言われました。

15:12 わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。ヨハネ

- ・ペテロは、主の戒めを自分の言葉でリピートしています。

「きよい心で互いに熱く愛し合いなさい。」愛し合うことにおいて、この聖句には3つ大切な言葉がついています。

1) 「きよい心で・・・愛し合いなさい」

- ・神にあって、たましいが清められなければ、清い心で愛し合うことはできません。私たちの心中は、いつも自分の欲のことばかりです。怒り、嫉妬、恨み、不信、利己主義が心の中にあるならば、心を毒してしまいます。
- ・そんな心では、兄弟愛をもって愛し合うことはできません。私たちの愛は、常に不純な動機が潜んでいたり、条件付きの愛であったりします。そのような愛で、本当の兄弟愛を持つことはできません。
- ・きよい心とは、真理に従うことによって心が清められ、初めて可能となります。肉の思いではなく、イエス・キリストによって心清められて、初めてきよい心で愛し合うことができるのです。

2) 「互いに・・・愛し合いなさい」

- ・愛は一方的に要求するものではありません。私たちは他人に期待します。妻は、夫が自分の願うように動いてくれないと不満です。友人との関係においても、自分が相手にしてあげることより、してもらうことに関心があります。しかし、聖書は互いに愛し合いなさい、と勧めています。

3) 「熱く・・・愛し合いなさい」

- ・ここで「熱く」と訳されている語は、ストレッチという意味です。つまり、「手を伸ばす」、「足・脚を伸ばす」、「身を乗り出す」という意味の言葉です。
- ・自分の身を乗り出すようにして、他の人が必要としていること、他の人の益となることを、「身を乗り出すようにして」してあげることです。
- ・いかがでしょうか。私たちはそのような熱い愛をもって、生活しているでしょうか。夫を、妻を、親を、子を、友人を、同僚を清い心で、熱く愛しているでしょうか。
- ・皆さん。今日は耳の痛い話しです。この後のメッセージは聞きたくない、思わないでください。この後が大切なのです。つまりペテロはここで、私たちが肉ではできない、このような愛はどこから来るかを明らかにしています。

2. 愛はどこから生まれるか（愛の出所）

- ・ペテロは、「きよい心で互いに熱く愛し合いなさい。」と強く勧めの言葉を送りました。愛は名詞形ではなく動詞形ですから、愛することは簡単なことではありません。果たして、聖書が教える愛は実行できるものでしょうか。はい、聖書は実行可能な課題を、私たちに提示してくれています。ペテロは、2つの事実を指摘しています。

1) 兄弟愛に従うことによって

1:22 あなたがたは真理に従うことによって、たましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、きよい心で互いに熱く愛し合いなさい。

- ・私たちは自分の罪を知らされました。神は罪深い私を愛してくださり、救い主イエス・キリストを与えてくださったことを知りました。救い主は、なんと十字架で私のために命を捨ててくださいました。
- ・その犠牲によって、罪が赦されるという真理に驚き、救いを受け入れました。神が教えてくださった真理に従ったのです。その結果、私たちの罪は赦されました。私たちはたましいに平安をいただき、たましいを清めていただきました。
- ・そればかりではありません。「偽りのない兄弟愛を抱くようになったのです。」
信仰を同じくする人への愛が「兄弟愛」です。イエス・キリストの救いにあずかった人々の中に起こる1つの変化は、他の人に対する関心です。
- ・信仰の友に対する思いやりや、配慮などが生まれてくることです。神はこのような変化を私たちに与えてくださいました。だから、「互いに・・・愛し合いなさい。」と命じておられます。

2) みことばの種によって

1:23 あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく朽ちない種からであり、生きた、いつまでも残る、神のことばによるのです。

- ・ペテロはさらに、兄弟愛の事実を語っています。
イエス・キリストによって新しい誕生を経験した私たちは、神の家族を構成します。血のつながりはありませんが、兄弟姉妹です。互いに愛し合う愛、それは「兄弟愛」です。
- ・23節で、「朽ちない種」は、「生きた、いつまでも残る、神のことば」です。種は地に蒔かれるならば、やがて発芽し、実を結びます。同じく、永遠に変わらない神の言葉は、私たちの内に働き、やがて私たちは新しいいのちをもたらします。
- ・それで私たちは、新たないのちに誕生しました。なんとという幸いでしょうか。私たちは神の言葉によって、新しくさせていただきました。ペテロは、旧約聖書イザヤ書の言葉を引用しました。
(イザヤ40:6-8)

1:24 「人はみな草のよう。その栄えはみな草の花のようだ。草はしおれ、花は散る。

1:25 しかし、主のことばは永遠に立つ」とあるからです。これが、あなたがたに福音として宣べ伝えられたことばです。

- ・イザヤ書39章を読みますと、イスラエルの民はバビロンに連れて行かれる「バビロン捕囚」の預言が語られています。つづく40章では、その捕囚からの解放が預言されています。
- ・当時のイスラエルにとって、バビロニアは繁栄の極みにありました。その富、文化、軍事力は圧倒的なものでした。イザヤは、どんなに繁栄し華やかであっても、人間が作り出すものはしおれていく草であると語りました。散っていく花にすぎないと言いました。
- ・一方、神の民は、どんなに貧しく、無力で、惨めに見えても、決して消えていかない、神の言葉が与えられています。不滅の言葉に頼っているなら、必ず幸いを得ることができます。変わることはない神の言葉に拠り所を置くならば、栄えると預言者イザヤは語りました。
- ・実際、バビロニアの栄華はどこにあるのでしょうか。ペテロがこの手紙を書いた時代は、ローマ帝

国の支配下にありました。世界最強の国家ローマ帝国の繁栄は、今どこにあるでしょうか。今は遺跡として残っているだけです。

- ・西ローマ帝国が滅亡して千数百年、東ローマ帝国は15世紀まで生き残りました。しかし、1453年オスマントルコによって、滅ぼされました。
- ・それに対して、聖書を神の言葉として信じ従う人々は、世界中にいます。聖書の言葉によって、新しい人生を迎えています。なんと幸いでしょうか。

「草はしおれ、花は散る。しかし、私たちの神のことばは永遠に立つ。」

40:8 イザヤ

ですから、私たちは互いに愛し合うことができます。

- ・私たちは、自分自身の内には愛がないことを嘆くものですが、神から「人を愛する力」をいただいて、互いに愛し合うという課題に向かうことができます。

- ・皆さん！ 「人を愛する力」は神のみことばから受けることができます。

聖書は、朽ちない種である「神のみことば」と言います。ですから、聖書の教えに従順であることです。みことばを選ぶことは、いのちを選ぶことです。

- ・神のみことばは、生活指針であり、救いの道です。

{例 話}

- ・今年2月、私はイスラエル聖地旅行でエリコに行きました。今回も、大変恵まれた幸いな旅となり、本当に感謝しています。そのエリコで、私は「エリコのバラ」を手に入れました。それは枯れた花でした（生花や生木は海外へ持ち出し禁止）。
- ・茶色で枯れた花には生氣は、全くありませんでした。しかし、そこに注意書きがあり、この枯れた「エリコのバラ」を水に入れてくださいとありました。帰国して、果たしてそうなるかトライしてみました。
- ・不思議です。まったく枯れた花と思われた「エリコのバラ」は、しばらく水槽に入れていたら、すると芽が出始めました。小さな枯れた「エリコのバラ」は、次第に大きくなってきました。
- ・皆さん。この「エリコのバラ」には、いのちがありました。ですから、発芽してきたのですね。人間的には、枯れたような花が芽をだすことは、不思議です。しかし、そこに命があるならば、理解できます。

- ・神のみことばも、まったく同じです。神への信仰がない人にとっては、枯れた「エリコのバラ」に過ぎません。しかし聖霊の水がそこに注がれると、みことばは発芽します。神のみことばは「朽ちない種」です。みことばには、力は秘められています。

- ・聖書はこう語っています。 **ヘブル人への手紙4章**

4:12 神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。

- ・いかがでしょうか。私たちには、「朽ちない種」である神のみことばがありますから、本当に幸いです。兄弟愛が生まれる源泉は、神の愛にあります。イエス・キリストの愛にあります。神の愛を受け入れた私たちが、本当の兄弟愛を行うことができる人になるのです。それは神からの贈り物です。

ま と め

主 題：「互いに愛し合いなさい」

—愛の勧め—

・今朝、私たちは幸いなみことばをいただきました。

1:22 あなたがたは真理に従うことによって、たましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、きよい心で互いに熱く愛し合いなさい。

・互いに愛し合う幸いは、神の子とされた者の特権です。

では、どうすれば互いに愛し合う兄弟愛を行うことができるでしょうか。

1. 神にあって心が清められること

兄弟愛の前提は、神にあって心清められることです。イエスの十字架の御血によって、罪が洗い清められた人です。神はその人を祝福されます。

2. 神のみことばに、「人を愛する力」を得る

みことばは朽ちない種であります。信仰でその種を受け入れるならば、必ず発芽してまいります。それは神の祝福であります。

* God bless you !